| 授業科目 | ＊在宅看護学実習 | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単位 | 2 | 履修 | 必修 | 開講年次 | 3～4 | 開講時期 | 後期・前期 |
| 担当教員 | 石井　美紀代、井手　裕子 | | | | | | |
| 授業概要 | 在宅看護学実習は、臨地の指導者とともに、在宅ケアならではの視点と看護方法について教授します。<br>既習の各看護学の知識、在宅看護学、在宅看護学演習で学んだことを基盤に、訪問看護ステーションで実習し、在宅で療養者する人とその家族を支えるケアについて理解を深めていきます。<br>また、療養者に起きている個々の問題を社会問題と関連させて捉え、地域で療養生活を支えるための看護の役割について考えます。 | | | | | | |
| 授業形態 | 実習 | | | 授業方法 | 実習 | | |

| 学生が達成すべき行動目標 | |
|---|---|
| 標準的レベル | 1．教員や実習指導者の助言・指導を受けながら、受け持ち療養者の看護過程が展開できる。<br>2．受け持ち療養者を理解し、安全・安楽な看護技術を提供できる。<br>3．訪問した療養者の生活から、在宅療養するために必要な条件が考えられる。<br>4．療養者を支える関係機関・関係職種との連携・協働を説明できる。 |
| 理想的レベル | 1．受け持ち療養者の個別性を考慮した看護過程が展開できる。<br>2．受け持ち療養者に必要な看護を自ら見出し、オリジナルの看護が提供できる。<br>3．療養者を支える関係機関・関係職種との連携の実際から、保健・医療・福祉のネットワークのあり方について説明できる。<br>4．療養者の訪問看護から介護における社会問題が捉えられ、在宅ケアの課題が見いだせる。 |

評価方法・評価割合

| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
|---|---|---|
| 試験 | | |
| 小テスト | | |
| レポート | 70% | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 10% | |
| レポート外の提出物 | | |
| その他 | 20% | |

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

| DP1 | - | DP2 | ○ | DP3 | ○ | DP4 | ○ | DP5 | ○ | ナンバリング | NU31307J |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 学習課題（予習・復習） | 1 回の学習目安（時間） |
|---|---|
| 1．訪問看護の対象者に関する疾患、社会資源、社会保障制度に関する学習<br>2．家族介護、在宅医療、継続看護に関する学習 | 0 |

授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | 【訪問看護ステーション】<br>療養者を 1 名受持ち、訪問看護師と同行訪問する中で看護過程を展開し、訪問看護師の指導の下、学生主体の看護を提供する。また、受け持ち療養者以外のお宅にも訪問看護師と同行訪問し、訪問看護師の指導の下、必要な看護を提供する。 |

| | |
|---|---|
| | これらの学びを、学生グループでディスカッションしながらまとめ、カンファレンスで発表する |
| テキスト | 各看護学領域の教科書・授業資料を用いて、看護過程および看護記録において考察していきます。また、受け持ち療養者の課題から社会問題や在宅看護・地域医療の展望を調べて看護観を深めるため、その都度、必要な文献を自ら検索していきましょう。 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 適宜、紹介します。 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | １．学生が考えた看護過程および実習記録を基に、個別に助言または添削します。<br>２．カンファレンスにおいてディスカッション内容を総評し、更なる考察を促します。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | 家族機能の変化、少子高齢化、医療供給体制の変化、介護保険制度の改正、障害者福祉サービスの改正、など、在宅看護に関連することは、毎日のようにニュース等で報道されています。社会の問題を意識的に見聞きしてください。臨地で起きている問題を、個人レベルの問題なのか、社会レベルで考える問題なのかを判断してください。 |